

平成 20 年度 第 4 回
清瀬市保健福祉総合計画「健康増進計画専門部会」議事録（要録）

日 時：平成 20 年 10 月 23 日（木） 午後 3 時 00 分～
場 所：清瀬市健康センター診察室

< 配布資料 >

- ・ 健康増進計画原案【資料 1】
- ・ 小学生アンケート・世論調査集計表【資料 2】
- ・ 健康増進計画の全体像【資料 3】
- ・ 清瀬市保健福祉総合計画構成案【資料 4】
- ・ 追加意見記入用紙【資料 5】

1 はじめに（事務局からの報告及び資料確認・自己紹介）

事務局：出欠状況と本日参加の事務局職員紹介及び配布資料 1～資料 5 の確認。

2 議題

（1）第 3 回健康増進計画専門部会の議事録（要録）について

事務局：訂正等がありましたら事務局へ連絡ください。

（2）第 2 章 4 節「アンケート調査結果と課題の抽出」及び小学生等アンケート

事務局より、先に第 2 章 2 節の加筆訂正部分についての説明。

コンサルより、資料 1 に基づいて 2 章 4 節の説明。

委 員：性別と年齢階級別の体系表を出していただいておりますが、例えば肥満などは男女で差があると聞きますし、漠然と 20 代、30 代ではなく、50 代女性、30 代男性とかでやったほうがターゲットも絞りやすいのではないかと思いますので、全部ではなくても年齢階級別の性別が必要ではないかと思えます。例の表の大きさが大きくなると思えますけど。

コンサル：そうですね。そういったところで、後ろのほうで節目とかそういうのも、やはり必要になってきますし、不明もありますので、加筆等を検討したいと思えます。

座 長：最初の 28 ページに全体の性・年齢の詳細が出ていますが、これは年齢別に見て男が多いとか、女が異常に多いとかという偏りはないのですか。大体半々、または四分六ですか。数値の年齢別もそうですか。

コンサル：大体は沿っております。

座 長：場合によっては委員のリクエストに応えるとなると、単純に年齢別にする
と数が少なくなって分からなくなるので、年齢を大きくくくってもいい部分もあるのではないか。20 代と 30 代の女性を足すと 170 人ぐらいになるけど、なぜ分けたのか。

委員：ものによるのではないかと思うのです。例えば、20代と30代で骨粗しょう症だとそれほど差はないと思うけど、20代前半は学生の場合がありますし、30代はきっと社会に出ていて安定している感じだと思うので、生活の習慣はかなり違うと思われま。最初のスタートのところで、対象者の年齢階級別の男女比がほしいですね。

座長：全部ではないけど、必要なものは異性年齢を絡めた集計が効果的かもしれないですね。お酒やたばこもそうですね。では、大変ですが少し考えてみてください。

事務局：資料2 -1・2 -2・2 -3について説明。

委員：小学生のこのアンケートで子どもたちと親御さんとが、どの子の親だというように特定はできませんか、数だけですか。

事務局：できれば面白い。多分、数が違うのではないかと思われま。何しろ人様のデータですから、特に中学生などは、クロスしたらとても面白いデータが出ると思うのですが・・・。

座長：面白いデータですが、分析は難しいですね、分かりやすく表示していただく。

事務局：データにはなっているのですが、膨大な量ですので・・・。

委員：個票が入っているのですか。個人の元のデータ。

事務局：あります。男女別にしたほうが面白いということで、男女別にしていま。

委員：見てすぐ分かるようなのがいいですよ。表だとなかなか分からない。

事務局：それを集計して表にしたものを、今回コンサルさんがグラフ化してくれたのです。

座長：これをまた、この中に上手に組み込まなければ。

委員：多分、目標値には、そのデータの数値も入っていると思います。

委員：東京都の行った調査のデータを参考にするのはいいとは思いますけど、これ、全部入れてしまうのですか。

事務局：お借りしたものですので、要らないものでも、データにしてお返ししなければという責務で入れました。

委員：実際に実施したアンケートのデータが載っているのですよね。

事務局：中学・高校生も同じようなデータを入れないといけないので、食事などもっと詳しいけれど、少ししか出ないとか、そうなっております。

委員：中学・高校生とバランスを取って、ピックアップして載っているのですね。

事務局：それが今、ここの、コンサルさんが説明してくれた部分になります。それを契機にして、これからもっとお母さまといろいろスムーズに話し合いができるかなと思います。

委員：青少協等とかかわり合いがありますが、このデータを少し分かりやすくして、子どもと親との食い違いを文章化して流していただきたいのですが、それは無理ですか。違う部分もあるでしょうけれど、やはり地域の子育て

にもこれは言えると思うのです。

委員：データとしてもらうだけでも、清瀬の小学生対象のアンケートですから、利用できるなら、すごく生きてくると思います。

事務局：教育委員会にデータとして返してありますので、教育委員会がよければいろいろ利用範囲も広がると思います。

委員：アドバイスとして、何かに役立ててくださいと言っていただければいいと思います。

座長：第3章第1節～第2節「本市における健康課題」等です。事務局からお願いします。

(3) 第3章第1節～第2節「本市における健康課題」等

事務局より、資料3に基づいて議題～の説明

座長：4つの重点課題と10の分野別課題の関係が分からないので、教えてください。

事務局：本来は、10の分野別課題の中に重点課題を組み込んで表現すればいいのかもしれませんが、ページの体裁の関係で、重点課題を抜き出して表現したものです。

座長：例えば、「がんの予防」がありますが、分野別課題の中でも「がん」というのが入っているし、食生活のレベルとか、こういうので「がん」の予防をやりなさいということかなとは思いますが、どうも整然としない。東京都の枠組みはこうなっているのですか。

事務局：東京都の重点課題は上の3つまでですが、これをさらに詳しく書いています。それで、ほかの分野については一覧表にして、それぞれ目標値を考えています。

座長：4つというのは重点で、残り幾つか入れてこういうふうにしたという感じですか。

事務局：10の分野別課題の中に、4つの重点課題があるという方が正しいです。

座長：それなら分かります。けどこの場合、「栄養・食生活」は「糖尿病とメタボリックシンドロームの予防」……あくまで別で、合計14あると言えないのですか。

事務局：10の分野別課題というのは国の分野別の表現方法で、下の10の分野別課題をベースにした場合、上の重点課題の中に「糖尿病とメタボリック」がありますが、下の番にもありますので、ここに統一して、これは清瀬の場合、重点課題ですという表現でいきたいなと思っています。

座長：分かりました。では、10の中から4つを抜き出すわけですね。そうすると「糖尿病とメタボリック」は、名前がおかしい。ここの検討を先にやってほしい。それから、「がんの予防」は「がん」で、それから、慢性閉塞性肺疾患は10番のところに入る。

事務局：循環器の脳血管性疾患は、この死亡率が高いこともあり、前回、脳血管性疾患を重点課題にという意見が挙がっております。

座長：だったら、10の分野別課題を先に書いて、そのうち4つの重点課題としたほうが分かりやすい。

事務局：最初はそうしておりましたが、ページの関係で、次の60ページから重点課題を提示したのですが、今、先生がおっしゃったように10の分野別課題の中で4つの重点課題が出てくるように整理したほうがよいと思います。

委員：構成図みたいな表にして、10個の分野別課題を出して、その横に4つの重点項目を並べると重点課題を先に書いてもおかしくはない。この両方の関係が分かれば。

委員：介護調査していますと、清瀬に結核関係の病院が多いので、結構、都内の老人の方がいらしていますが、市民の方から「清瀬は肺結核のまちというふうに昔言われていたから、そのイメージがあるのよね」と言われたのです。市としてのイメージがあって、循環器系というのが結構、清瀬は多いわけで、それを4番に入れる理由が分からない。

事務局：入れる・入れないは、この次の部会の中で判断していただきたいのです。

委員：4つでないといけないのかなと思うのです。「糖尿病」、「メタボ」、「がん」、「こころの健康づくり」は何となくスーッと入ってきますが、「糖尿病」も特定の疾患ですけど、「メタボ」のことが入ると少し間口が広いかなという感じですが、それに比べると、慢性閉塞性肺疾患というのは特定の1疾患なので少し違和感がある。

事務局：これは事務局がまとめたものですが、実は前回の会議の時に、清瀬のオリジナリティーがあるのではないかというご意見を頂いたわけです。その中で、「清瀬は呼吸器の障害者のまちだよ」と。その辺を含めて、でも結核だけで一くくりににはできないと思い悩んだ末に、慢性閉塞性肺疾患という表現はどうなのかなという形で考えてみました。ですから、もし3つなら3つで構わないわけです。もしくは、本文のほうの脳血管疾患を前回同様に循環器系疾患の中に含めることもできると思います。

座長：だったら、これは無理やりに慢性閉塞性肺疾患という難しい言葉を立てないで、考え方として「たばこ」の中に含めてはどうでしょう。

この10の分野別課題の順序は、何か意味があるのですか。

事務局： から 番というのは国の順番で、全国的にそうなのです。

委員：この10の中で 番までは具体的で、 番が少し、言葉自体が漠然としていますね。

事務局：実は関東地区の中で川崎市がこのスタイルにしています。もし、これが不要だということであれば、取っていただいて、別枠で省略して述べることも可能です。

- 座長：これはむしろ、理念とか、そっちのほうに入るのではないですか。
- 委員：もしもこの中に、例えば慢性閉塞性肺疾患というのが清瀬の特徴なので、健康なまち「きよせ」の実現ということで重点的に慢性閉塞性肺疾患のことを書くのなら、今のところ表現は漠然としていますけど、中身としては具体的な中身が書けるのではないかと思います。どういうふうにしたらいいかよく分からないのですが、健康なまち「きよせ」の実現を重点課題に持って行って、「慢性閉塞性肺疾患の予防」を消して、下は9個の分野別課題にしていっていただければどうでしょうか。構想を変えて、すみません。
- 委員：私は素人なものですから、パッと見た時に「あ、患者さんが多いのかな」という感じを持ったり、そういう目で見えるのです。
- 委員：私、言葉を知らないのですが、閉塞性とは何ですか。一般市民は知っていますか。
- 座長：慢性閉塞性肺疾患というのは、たばこ病です。たばこをたくさん吸い続けることによって肺の組織が破壊されて息が苦しくなる。ひところ、肺気腫とか、慢性気管支炎とか、そういうふうに言っていた同門の病気をまとめて、このごろは慢性閉塞性肺疾患と言っています。清瀬も結核が多いまちで、手術した後の人がそこら辺で酸素をくわえて歩いているのを見ます。昔は結核術後の人が多かったのですが、今は一番多いのは、肺がんの手術の後か、慢性閉塞性肺疾患（たばこ病）です。その予備軍がたくさんいるわけです。社会現象として、そういう意味はあるでしょうね。
- 委員：この言葉自体が市民化されているか、全員に認知されているかどうかですよ。
- 座長：このごろ、COPDという言葉で言っていることが多いかもしれませんが、日本語に直すと慢性閉塞性肺疾患というのがCOPD。まだ認知度が低いと思います。
- 委員：テレビとか、NHKの健康に関する朝のテレビとか、そういうのを見ていらっしゃる方は多分、目新しいから「あれ、こういう病気があったの」という感じで聞いていると思うのです。生活習慣の悪い方は悪いのですが、お年を召して患っているなという気がすごく私はイメージとして持っています。啓蒙するという意味ではいいと思います。
- 事務局：それでは、慢性閉塞性肺疾患は重点課題にせず「たばこ」の中に組み入れていきたいと思っています。
- 座長：それでは、話の順序として、10の分野別課題が 番から 番までありますが、そのうちから4つ重点目標を選んで、さらに4つのそれぞれについて、その中の特にこれというのを出すというふうに考えていただければと思います。例えば「がんの予防」はこの 番の「がん」と一緒ですね。それから、「こころの健康づくり」も 番のこれと一致ですね。「糖尿病・メタボリックシンドローム」というのは「糖尿病」という 番になるのです。

これに「メタボリック」がくっつくのだけど。

委員： 番、 番も無理にくっつけば、くっつきますね。

座長： もしかすると「循環器疾患」とも結び付くかな。

委員： 最近、メタボの言葉自体が非常に何ていうか、市民権は得たのですが、判断が非常に広がってきて、いいの・悪いのということで問題がだいぶ今、出てきていますね。

座長： 「メタボリックシンドローム」になると、もともとは、糖尿ですよ。

委員： この4つの重点課題というところは、その下の分野別課題を複数含有しているという感じがするのです。「がん」も、たばこもあるでしょうし、食生活、「がん」単独でもあるでしょう。いろいろなことが影響していると思うのです。「こころの健康づくり」といっても、「こころの健康づくり」だけでなく、運動とか家庭とかも影響するでしょうという感じで。

座長： この部会で取組みを具体的に作る計画を立てるのは、この4つの重点課題だけについてやればいいわけですね。この10のほかのこともやるとなれば、重なったりして。

事務局： 違います。重点のところは、 番「糖尿病」というと栄養・食生活、全部が入り込んでくるわけですね。だから、例えば、そこに私たちも具体的な対策というものを、余裕があれば、尻をたたいて運動させるとか、そういった具体的な項目が出てくるかなと思います。多分、関連してくるものですよ。関連しないと、なかなか対策を立てにくいですから。

事務局： 後で具体的な目標数値というのが、次に出てくるのですが、それがやはり9分野（ここでは10挙げていますが）で、9分野の目標値を決めるのです。

委員： どのくらい努力するのか分かりますか。

事務局： アンケートを見てから、後で説明しますけれども、今の実績がどのくらいで、それで清瀬の目標水準は何%か。減らす、増やすとか、そういったことを検討しなければいけない。その時の基礎ベースになるものです。

9項目の中で何を重点課題にするかとなるので、9項目は減らせない。

委員： 10個目を川崎市みたいにやることは、どういうメリットがあるのですか。

委員： 10個目で清瀬の特徴を出そうとしているのではないですか。

事務局： メリットというよりも、清瀬の意気込みをこの中に入れてみようという、その心積もりで入れております。もし、要らないということであれば、取っても構いません。

委員： やはり、 とかいろいろ取る時に何か文章化したものとか、アピールすると取れるのではないかなと。だからそういう意味で、清瀬の意気込みであるとすれば、やはりそれを加えて、そして私たちはそういう健康増進みたいなのに参加するんだみたいな、そういうのがあったら、 番目に加えてもいいのではないかなと思う。

- 委員：健康なまち「きよせ」の実現のところで具体的に何を書くかですけれど、少し言葉としてはあいまいで、漠然としているというか、そんな感じがするので、～の案が理念として出ていますけれど、むしろ、健康なまち「きよせ」の実現のほう理念としてはいいかなというふうに思います。それで全部困う。そうすると、ここの分野別の課題のところは9項目にして、全体に、健康なまち「きよせ」の実現がぽんとくる。
- 座長：では、まず理念を決めましょう。
- 委員：この理念のところで少し気のなるのは、このととはどう違うのですか。の「みんなの力」というのは市民で、番で市民が主役になったら同じですね。健康づくりは、両方、健康づくりですよ。
- 委員：強いて言えば、広げようということですから1つの文章にしては駄目なのですか。
- 座長：「みんなの力」というのは、市役所の人ではなくて市民ですよ。内容的にはとはほとんど一緒。
- 委員：だから文章を1つにしていいのではないかなという気もするのですが。
- 座長：それで番はどうか、子どもから高齢者まで、年齢範囲含めて健康づくり。それで、番は一番、市長が応援している、明るく心豊かになるんでしょう。
- 委員：こういうのは割とリズムというか、語呂というか、大事ですよ、口調というのが。
- 座長：健康なまち「きよせ」の実現というのは、あまり具体的ではないと。
- 委員：具体的でないから理念のところに持ってきたらどうかと思ったのですけれど。先ほど課長さんから「ここで行政の気持ちをここに込めて」という話があったので、それだったら、トップに持ってきたらいいのではないかなと思ったのです。
- 座長：どうですか、、、、、プラス健康なまち「きよせ」の実現、あるいは、もっといいのがあれば、どうぞ。
- 委員：健康なまち「きよせ」の実現と番はくっつかないのですか。
- 事務局：この場で結論を出すというのは無理かもしれません。そのほかの案もあるかもしれません。きょう、次回検討のアンケート用紙みたいのを皆さんにお配りしていますので、記入していただき、その意見を取りまとめて、皆さんにもう一度お返しします。それを最終日に、11月に記されても構いませんので。
- 座長：理念だから少し主張を、単に杓子ベースにならないで、なんか気持ちをイメージとして気持ちを込めていただいて。さっきのところで、基本目標。これはかなりはっきりしていて、病気になって長生きするのではなく、元気で長生きの「健康寿命」。それから「生活の質の向上」、「地域健康づくり」、これも清瀬のすごく大切な分野です。これははっきりしているの

す。それは、このままでいいですね。だから、理念に基づいてこういう3つの目標という形で、これを実現するために、10の重点課題をもって、そのうちの4つを特にまたという話になったのですね。それで、10の課題の中の、さっきの健康なまち「きよせ」の実現がなくなりますから、そこに何かを入れるか、9つで行くかということです。最初の案では、清瀬独自のというものとなり、脳卒中や肺の疾患が多いからという説が出て、それに相当するものを入れ込むか、あるいは、全然別のことがあればということです。循環器疾患というのは、その場合、脳卒中は含むのですか。清瀬は脳卒中が多いという統計の事実があれば、もちろん脳卒中を別に挙げてもいいのですが、普通、循環器疾患とすれば脳卒中も入るでしょうね。

委員：アンケートを循環器にして、少し脳血管疾患のほうを膨らますような形にして、当然、メタボとか、いろんな部分は載せて。

座長：循環器疾患の中でメタボと脳卒中对策をやりますよという重点設定の仕方ですか。

委員：今のところメタボをベースにしながら、タケノコみたいにちょこちょこというふうに。

事務局：ここの分野は栄養的な部分が結構多いので、具体的な項目なども栄養的な部分の要素は、割と市民は多いにはまっていると思うので、栄養指導という形のほうが。

委員：運動も大事でしょ。メタボは腹囲が出てくるわけだから、結局、肥満でしょ。

委員：食事と運動ということになると思うのです。

事務局：この中で重点課題を例えば3点なり、何点だけを、その中で上のちょっと突出したものはこの中に組み入れますよという作業をしていただくと有り難いのですが。

委員：重点課題のところは、みんな予防になっているのですよね。健康づくりとか予防的な項目で。下の分野別の課題については特に予防という言葉は付いてないので、それぞれの課題について予防から事後処理まで全部ということですね。

事務局：この辺の組み立て直しは今度の再提出でも構いませんので。

座長：分野別でもかなり出ています。母子保健まで出ています。

事務局：母子保健計画はすでに策定済みで、それを生かす方向です。

座長：健康問題として入れてもいいわけでしょう。舞台が違うよというのなら重点に取り上げないで、こうやって10列挙したままで、やはり1つの例でやっていく。いや、呼吸器疾患かなと思ったけど、呼吸器疾患は「たばこ」とかほかに入っちゃうし、「がん」とかに入るし。医学的に言えば、感染症と予防ですかね。感染症はちょっと割に合わないですね。

委員：それは計画の役割分担になりますかね。健康増進計画が出て、役割分担が

あって、次世代育成行動計画のところでも母子保健、介護保険がと・・・。

座長：書いておくことは、体裁上は必要というか、格好はつきますね。一方、課題。清瀬の条文になっちゃうから。国のほうのやつにも、母子保健関係は入っていますか。

事務局：「健康日本 21」というのと「健やか親子 21」というのが分かれています。去年、「健やか親子」に基づいた母子保健計画というのを作成して、皆さまのところへ。本当は一緒にやれば一番いいんですけど、なかなかですね。

委員：こういうふうには、この病気自体も清瀬に特に多いのかというふうに思いますよね。それを裏付けるといのは一切今まで出てきてなくて、特定の疾患として重点課題に、ここを出してくる根拠が私からは見えないのです。

座長：呼吸器科の病院が多いから、したがって、多いと思いますけどね。

委員：データで見てくると、清瀬市の受診率が低いというのがちゃんと出てきているわけだから、これを何とかしましょうというの納得できるのです。

事務局：ここで、重点項目とこちらの具体的なことで、少し食い違いがあるのですが、けれども、前回、結核検診をやっていますよという話が出ているのですが、具体的な目標になってきますと、つまり検診率を上げるとか、患者の徹底的な管理とかという話になってきますと、うちの分野とかけ離れてくるから、どうかなという話になった経過があります。

確かに慢性閉塞性疾患、肺気腫の方が多くて、竹丘の辺りに来ると結構、酸素を持って歩いているのですが、これを1つという部分になると、どこになるんだろうという、具体的な目標というのがなかなか私たちも見いだせなくて、今、事務局として考えている部分は、「たばこ」にももう少し深みを持たせていけるものなのかな、という感じもあるのです。あとは、脳血管疾患は循環器系疾患の中に入りますが、この間の会議の中では、心疾患よりも脳血管疾患のほうがうちの死亡統計で見ると多いという話をし、当然、循環器が高血圧と全然関係ないわけではないのですが、やはり、脳血管疾患という形でデータが出てくるのはどうだろうかというのが私たちとしてもあるわけです。普通、どこの市でも脳血管疾患のほうが死亡率は下がってきているけれど、清瀬はそうでもないという特徴的があります。それで、この間少し説明させていただいたのです。

座長：では、一応、これは清瀬にとってキーワードということで、脳血管疾患を加えましょうか。脳血管疾患を最後に。それで、入れたからには重点課題にしないとおかしい。それで重点課題は、「糖尿病・メタボ」「がん」「こころの健康づくり」、それと「脳血管疾患」ということです。

事務局：承知しました。

座長：あと目標についてはまたご提案もあるでしょうから、きちっと組み入れていただきたい。

事務局：承知しました。

座 長：「項目別に具体的な取組みの推進」は、そこのところを事務局で意味づけしていただいて、この次にしましょう。「ライフステージごと」を少しお願いします。

事務局：その前に、実はこれまでの流れの中で、60ページからの「具体的な取組みの推進」、第2節に、こういうふうなものを取り組んでみましょうという感じで入れてみました。最終的にまとめる時に、どのような課題と取組みを行いますという考え方をしております。最後の67ページから、ライフステージごとの、要するに年齢区分で区切った具体的な市の現状、それと市の現状に基づいてこれからの市の目標を決めていってまいります。それと、都・国の目標も参考までに、ここには67ページに置いております。このスタイルとしては、第1節は乳幼児期と学齢期がありまして、次の70ページには、成人・壮年期を載せております。それがライフステージ別のという言い方でございます。これはもっと具体的な数値、今の若干な説明はコンサルの研究員のほうからお話しが。

座 長：ライフステージと重点課題について、ライフステージごとに取組みを絡ませるといったところまではしなくていいのですか。そうしたほうが、格好はいいですね。できるだけ、そうしたい。

事務局：すみませんでした、そうですね。

委 員：そうですね。運動とかアルコール依存症とか、ちりばめられていると思います。

座 長：部分的にはちらちら見えますね。今ここに書いていただいているのは、さっきの説明だと、市の現状、都目標、国目標と書いてあるけど、この目標のほかに市の目標も書く必要があるということですね。

事務局：そこのところは次回、11月にきちんと明示したい。

座 長：では、事務局のほうで案を出していただいて。

委 員：市の現状の後に目標を出すということですね。

事務局：その目標を出す時は、例えば都の目標はパーセント、あるいは「増やす、減らす」とかの表現となっています。その辺だけは、ぜひご了解いただきたいと思います。なお、68ページの「たばこ・アルコール」があるのですが、例えば、未成年者の飲酒率が小学校の男子・女子に分けましたところ、割合が高くなっています。その理由は「正月に少しだけ飲んでも飲酒率が上がる」ようになっており、（飲酒率ではなく経験率のため）この数値は使えないと思っています。そのため手直した上で再提示したいと思います。

委 員：「たばこ」の場合も何時からか自動販売機では買えないように決まっています、電気を消すようになっていのに、電気が消えても買えるところがうちの近くにあるのです。

委 員：明かりだけが消えて、機能はしているということですか。

委 員：違反なのです。どこか知っているのですけども言えないです。だから、本

当にあの辺学校が多いから・・・。

座 長：では、目標に掲げるのはいいいけれど、青少年、未成年者の飲酒率を下げるために何するのと言われた場合、何か答は用意されるのですか。

事 務 局：これは、これまでの事業実績のアンケートと国や都の取組みなどをベースにして、清瀬の実情を述べています。それサンプルが、60 ページからあります。それを説明してさせてもらっていいでしょうか。市の具体的な取組みの指針というところです。

座 長：いや、これは重点目標に対してでしょう。

事 務 局：重点だけでなく、ほかの分野もすべてこういうスタイルを作ります。この目標を達成するために、どのようなことをやろうとしているかということですね。それで目標をどのくらい達成したかを、今後の中間評価を経て、新たな目標として設定したり、反省を踏まえて新たな取組みも行なっていきたいと考えております。

委 員：そうしないと予算は出ないのですか。

事 務 局：予算の問題でなくて、清瀬市としては、市民一人ひとりが健康になって健康寿命を延ばしていただきたいと。それが、結果として医療費の軽減に結び付くというようなことです。

座 長：それでは、先に進ませていただいてよろしいでしょうか。

「本計画の保健福祉総合計画への組み入れ」これについてはどうですか。

事務局より、資料4に基づいて議題 ~ の説明

座 長：この時計文字の の第1章、それと時計文字の の第3章も含めてですか。

事 務 局：そうです。それでご提案したのが、資料3の様式サンプル1と2です。こんな体裁で保健福祉総合計画の中に組み入れたい。また、ページ数も限定されますので、この中に圧縮したい。例えば、1番目の「栄養・食生活」は目標数を少し限定し、現状と課題を(2)として入れ、(3)で課題解決に向けた市の取組み・一人ですること・地域ですることをイメージしています。そうすればすっきり整理できると考えております。

座 長：これは1ページではないのでしょ。1枚で全部終わるのですか。

事 務 局：全体で35ページです。

座 長：グラフをこの中に入れるわけにはいかんでしょう。

事 務 局：グラフを全部入れるとなると1項目だけで2ページになり、更に分野別課題を入れるとなるば、それだけで20ページ近くにもなります。

座 長：重点だけでそれ以外は外して、10分野、全部やる必要はないでしょう。

事 務 局：重点は詳しく載せて、形にしていきたい。それで、35ページぐらいになります。

座 長：分かりました。

委 員：この表の3枚目、一番最後の「こころの健康づくり」で、学齢期はこれでいいとして、成人壮年で「ストレス解消でいきいきと」がありますね。か

っこの中が「ストレスを感じている人の割合」で 30.4%。目標値はこれ、増やすのですか。

事務局：これは「減らす」ですね。失礼しました表現ミスです。

委員：そしたら高齢期も一緒ですね。ストレスを感じている人を増やされては困ります。(笑)

事務局：そうですね。これはサンプルですけど、国のページをポンと持ってきただけです。すみませんでした。一応こういう体裁で考えていますという形です。

座長：それで、その他「追加意見記入用紙の扱い等」。これは、この次のあれですか。

事務局：これは今日のテーマで理念が課題として残りました。そういったことをこの用紙を使って、意見を出していただきたいと思います。今回、中身が濃いものですから、事前にいただいたものをまとめて、委員の皆さんにまたお返しして、さらに検討していったものを、11月の次回開催日に詰めていただきたいと思っております。記入方法は委員名をまず記載し、追加意見欄については発言不足や追加意見等がある場合にお気軽にこの用紙をお使いいただきたいと思います。今回、理念は宿題になりましたので、どうぞ、この中に書いていただきたいと思います。

整理の都合上、事前に提出いただくものは委員名を入れますが、集約段階では意見のみを列記してお返しします。次回の委員会開催 11月17日ごろを予定しておりますので、ご面倒をお掛けしますが、提出期限は今月の30日に設定してあります。提出方法は、郵送でなくても、FAX、または健康センターに来るついでがあればそのときに提出いただければと思います。

委員：目標はこれでいいのですね。

事務局：はい。追加意見に理念等も含めて記載していただきたいと思います。裏も使えますので項目ごとに列記していただければと思います。

(4) 今後の開催日程

次回専門部会日程決定 11月17日(月) 17:30~

(その他)

委員：事務局から説明で、資料1の23ページのがん検診の比率のところ非常に目立っていて、保健所のほうでも問題になっていて、今プランをつくっています。

例えば大腸がんの検診だと、2日方式を受診された方をカウントしているところもあれば、1回だけでカウントしているところもあって条件が違う。これは、国に出す報告書の中から取っているもので、報告の仕方がそれぞれ違うためにこういうばらつきが出てきており、同じ土俵で勝負させ

るのはよくないと思います。保健所は、やはり受診率は問題にすべきだという意見もあるので、条件が違うということを書き込んだ上で出しましょうということになっていますので、同じようにしたほうがいいと思います。

事務局：25ページの健康大学は数値だけですが、健康大学の受講生というのは、大学生プラス聴講生の数でやりますから興味があれば多くなるし、興味がなければ少なくなるというふうに流動的なものです。担当と相談して過去5年間くらいの地域登録者、健康大学生としてどうなのかというものを出示したいと思いますので、少し増えるかもしれません。それは全体の総合福祉計画に出さなくても、私たちの健康増進計画として残っていればいいのかと思っています。また、健康づくり支援事業につきましては7団体から貴重な提言やデータをいただいていますので、それを集約して必ず載せたいと思っています。

座長：それでは、長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

以上

(閉会)

平成 20 年 10 月 23 日
午後 3 時 00 分～5 時 00 分
清瀬市健康センター診察室

第 4 回清瀬市保健福祉総合計画「健康増進計画専門部会」次第

1. はじめに

2. 議題

(1) 第 3 回健康増進計画専門部会の議事録（要録）について

(2) 第 2 章 4 節「アンケート調査結果と課題の抽出」及び小学生等アンケート

(3) 第 3 章第 1 節～第 2 節「本市における健康課題」等
前回討議いただいた重点課題の決定等について

本計画の理念・目標

重点課題の大目標・中目標・取組み

項目別の具体的な取組みの推進

ライフステージごとの目標と取組み（表部分）

本計画の保健福祉総合計画への組み入れ

その他（追加意見記入用紙の扱い等）

(4) 今後の開催日程

第 5 回健康増進専門部会（案） *会場の都合でいずれも夜間開催となります。

・開催予定日 1 案：平成 20 年 11 月 17 日（月）18：00～健康センター研修室

・開催予定日 2 案：平成 20 年 11 月 18 日（火）18：00～健康センター研修室